

「節薬バッグ運動」集計結果（報告）

（H28. 4月～12月）

1. 事業概要

医療費の増大が問題視されるなか、残薬改善は大きな課題の一つといえます。日本薬剤師会の調査では、残薬は推計年総額475億円に上るといわれています。また、残薬問題は、医療費の削減のみならず、医薬品の適正使用が重要と考えます。

このような状況を鑑み、地域住民の方々の医薬品適正使用のための試みとして、かねてよりの懸案でありました「節薬バッグ」を活用した薬剤調整事業を実施しました。

事業の実施に当たり、まず当会会員薬局へ事業説明を行い、参加薬局は30薬局となりました。参加薬局には、節薬バッグ20枚、ポスター、ちらし、報告様式（FAX及びメール）を配付しました。

2. 事業内容

患者さんの了承に基づき、節薬バッグを配布し、自宅の残薬を持参していただきます。薬剤師が持参薬の服薬が可能か否かを検討し、処方医に疑義照会を行います。処方医の判断、了解に基づき残薬調整等の提案を行い、持参された薬を有効活用するだけでなく、患者さんに対しアドヒアランス向上のための措置を図り、服薬指導を行います。

事業はトライアルとして平成28年4月から平成29年3月までとしました。

3. 集計結果

集計期間は4月～12月末までとし、73件12薬局より報告がありました。



(1) 性別と年齢

性別は73名中、男性32名（44%）、女性41名（56%）であった。年齢は最低が45才、最高が93才。80～84才までが最も多く全体の28%だった。

(2) 作業時間

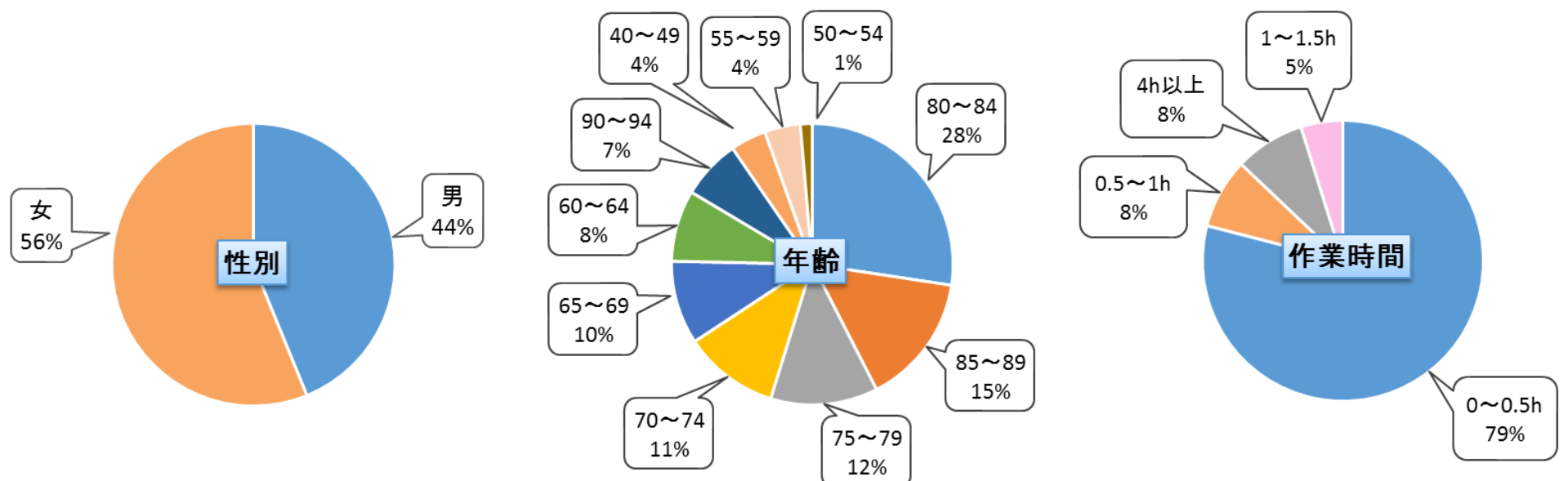
作業時間は0.5時間以内が最も多かった。しかし、4時間以上かかった件数も5件あった。

(3) 最長残薬日数

最長残薬日数は4日分から457日分と幅があり、平均33日分であった。

(4) 残薬金額

残薬の総額は636,718円に上った。



4. 結果について

今回はトライアルとして実施しましたが、服薬指導を通して患者の薬への理解が得られ、薬の適正使用につながったと考えられます。今後も継続して行うことにより残薬を削減し、結果として、医療費の適正化とともに、地域住民の方々の服薬支援に寄与すると考えます。